

# 漁況海況予報事業浅海定線調査

## — 陸 奥 湾 —

### ( 要 約 )

尾坂 康・仲村 俊毅・永峰 文洋・植木 龍夫  
早川 豊・浜田 勝雄・鈴木 勝男

この調査は、陸奥湾内の海況の特徴や変化を把握し、湾内漁業および増養殖業のための予報や健全な発展に資することを目的として実施したものである。

#### 調 査 方 法

調査地点…………… 6 定点 毎月 1 回 年 12 回観測

調査水深…………… 0. 5. 10. 20. 30. 40. 50. *m* および底層

調査項目…………… 水温、塩分、COD、クロロフィル *a*、水色、透明度、卵稚魚、PH、プランクトン、気象、海底土の強熱減量、粒度組成、全硫化物量

#### 調 査 結 果

- (1) 水温は 8 月の中旬に st. 5 の表層で 23.0℃ の最高水温を観測し、最低水温は 3 月上旬に東湾で 2.7～4.3℃ が観測された。
- (2) 塩分は 4 月から 10 月までの成層期に、表層、底層の較差が大きく、鉛直混合期の 10 月頃より 3 月まで、表層、底層ともほぼ一様な値となる。最高塩分は 8 月中旬に st. 2 の底層で 34.25% が、最低塩分は 5 月上旬に st. 3 の表層で 32.56% が観測された。
- (3) COD は 0.02～1.31 ppm の範囲にあり、5 月から 7 月頃に高い傾向を示した。
- (4) クロロフィル *a* 量は植物プランクトンの増殖期と一致し、特に 4 月、2 月、3 月は高い値であった。
- (5) 透明度は 7 月、8 月の st. 4 の 25*m*、1 月の st. 1 の 23.0*m* が高い値であった。
- (6) PH は 8.2 から 8.4 の範囲内にあった。水色は 3～6 の範囲内にあった。
- (7) 卵・稚魚は 8 月を中心に 6～11 月にかけてカタクチイワシ、サヨリ、マアジ、シロギス、メバルなどがみられ、種組成や個体数も多い。11～4 月にはアイナメ稚魚がみられた。
- (8) 動物プランクトンは 4 月～8 月にノクテルカ（夜光虫）、6～10 月には枝角類、ヨコエビ類が多くみられた。
- (9) 植物プランクトンは春から秋頃に *Chaetoceros affinis*、*Ch. decipiens* などが多くみられ、冬期には、*Chaetoceros debilis*、*Ch. socialis*、*Thalassiosira mala* が卓越していた。
- (10) 海底土の泥含有量は st. 2. 3. 4 で高く 80% 以上を占め、st. 5. 6 では 60% 以下であった。
- (11) 海底土の強熱減量は 4～20% の範囲であった。
- (12) 海底土の全硫化物量は 0.01～0.4 *mg/g* の範囲内にあった。

---

詳細については、「昭和 51 年度漁況海況予報事業浅海定線調査 青森県水産増殖センター 昭和 52 年 3 月」に報告済み